

# 「防災情報通信講演会・機器展示会」を開催



講演会の模様

北陸総合通信局及び北陸地方非常通信協議会は、北陸情報通信協議会等の協賛の下、6月21日（火）に、能美市内の石川ハイテク交流センターにおいて防災情報通信講演会を開催し、国、自治体、及び消防などの防災関係機関から、約220名の参加がありました。

講演会では、群馬大学 広域首都圏防災研究センター長の片田敏孝教授から、「東日本大震災にみる命の分岐点」と題し、津波ハザードマップの浸水予想地域では死者が少なかったものの逆に浸水予想地域の外で死者が多かった事実を例に、事前の行政情報を過信するのではなく、その場の状況に応じた自らの判断で避難することの重要性についてご講演がありました。

また、京都大学防災研究所の後藤浩之助教からは、「東日本大震災を引き起こした地震と地震動による被害」と題し、今般の震源域が海域であったことから地震動による直接的な被害は津波に比べれば小さかったものの、今後予測されているM8クラスの余震が内陸で発生した場合には地震動により被害の規模は遙かに大きくなるので、警戒が必要であるといったご講演がありました。

講演会に合わせて、防災行政無線、IP衛星ブロードバンドや地域コミュニティ無線など防災情報通信システムの機器展示が行われ、講演会の参加者は今後の災害における情報通信基盤の整備強化の参考とするため熱心に質問するなど展示システムに見入っていました。



機器展示の模様